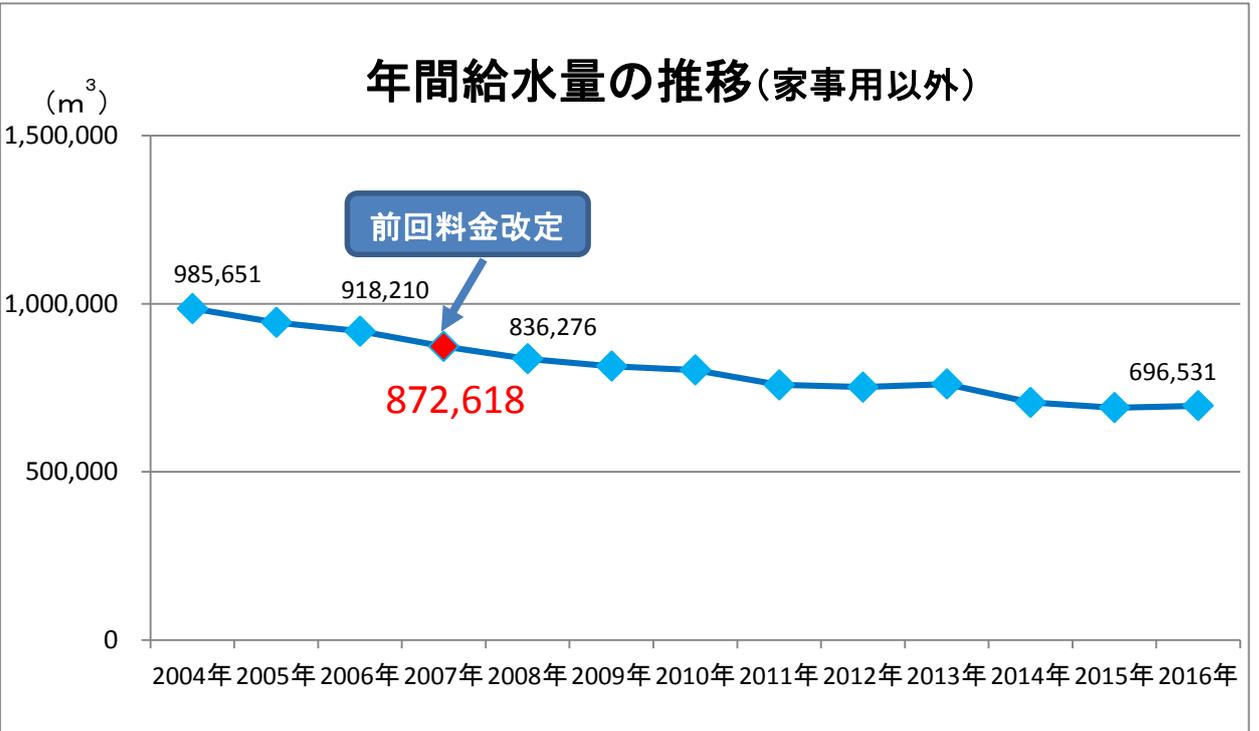
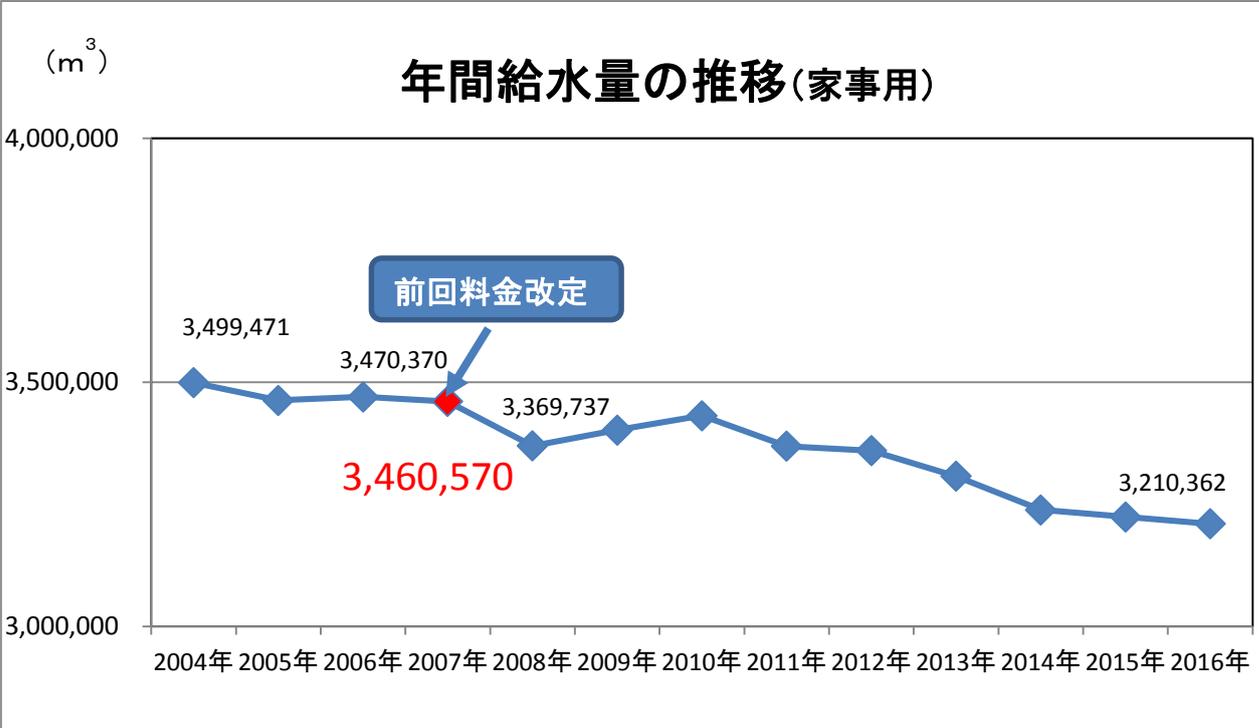
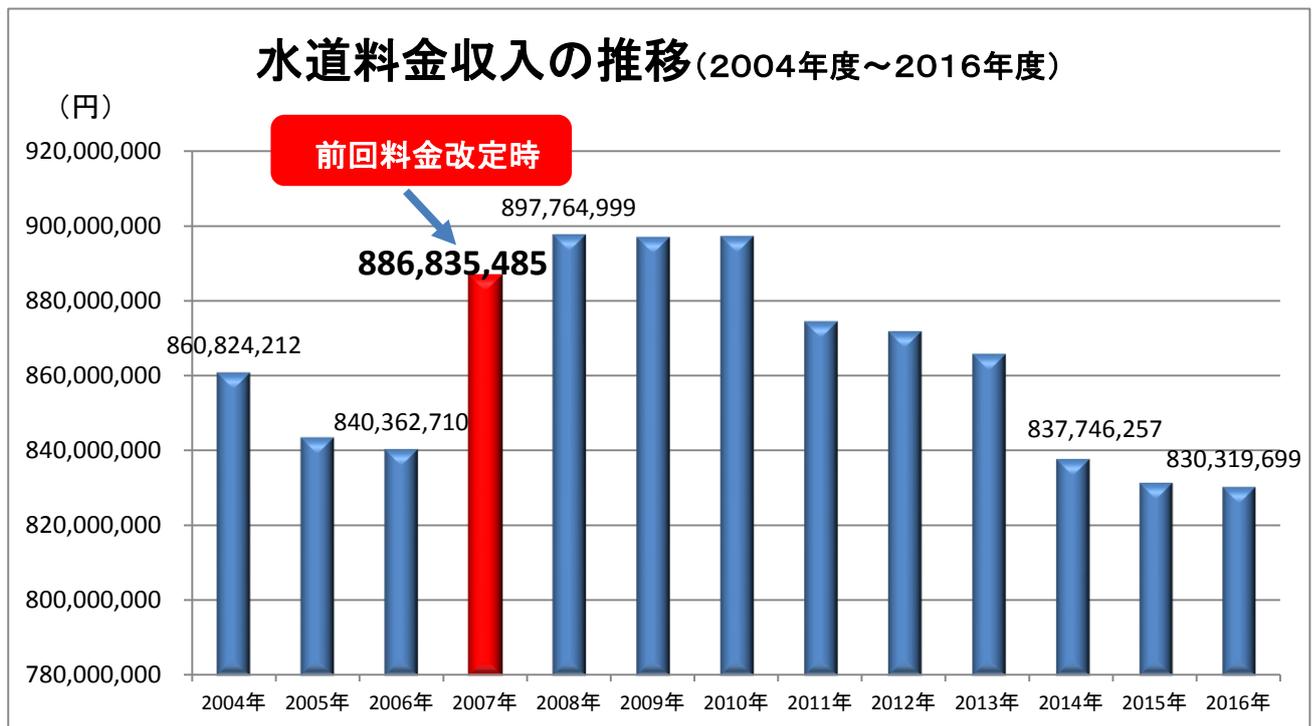


前回料金改定による使用水量及び料金収入への影響について



【年間給水量の推移】

2004年度から2016年度までは家事用・家事用以外ともおおむね減少傾向であり、料金改定前後で極端な増減は認められません。



【給水収益の推移】

2004年度から料金改定前の2006年度までは水道料金収入は減少しており、料金改定年度の2007年度から数年間料金収入は増加したものの、2014年度には料金改定前の2006年度と同程度の料金収入まで減少し、その後も減少傾向です。

料金改定前後では、収入減少には繋がっていません。

【これら2つのグラフからの考察】

前回料金改定前後で、利用者が極端に水道水の使用量を抑えた傾向は認められず、経営戦略や料金改定のシミュレーションにおける推計値についても、通常の人口減少等による給水量の減少分を見込んでいるため、今回改定の影響も推計値の範囲でとどまるものと判断しています。